

ブータンでシステム開発

大成HD 子会社設立 IIT人材育成

【千葉】大成ホールディングス（大成HD、東京都葛飾区、徳倉俊一社長、03・3691・5484）は、ブータンでシステム開発などの事業に乗り出す。国内で受注した案件を現地人の技術者が開発する。同国に全額出資子会社を設立し、現地大学でIITを学んだ卒業生の採用を始めた。同国におけるIIT産業の育成に寄与することで、日本のIIT人材不足をカバーする。



ブータンに設立した子会社TIIJテックのオフィス

大成HDは子会社の首都であるティンブツェにIIT企業などを集積する「テックパーク」に立地する。社長は

徳倉社長が兼務。すでに正社員として技術者2人と事務員1人、アルバイト数人を採用し

た。また同国の工科大学でIITを学んだ卒業生をアルバイトとして採用し、優秀な人材を正社員にする。日本語を含めた研修を徹底し「日本品質のサービスを提供する」（徳倉社長）としている。TIIJテックは2022年12月期に売上高2000万円を見込む。

大成HDの事業会社で、育成型人材紹介を手がけるピースグローバ（東京都葛飾区）と日本語学校のTIIJ東

京日本語研修所（同）が連携して現地での事業を展開する。

ブータンには、日本の就職を希望する若者が多い。そこで将来は同国の労働人材省経由で、日本のIIT企業に人材を供給する仕組みを構築する方針。ベトナムでもピースグローバの提携先である現地の日本語学校などと

連携し、ブータンと同様の事業に取り組む。同国は山岳地帯の地形を生かした水力発電や周辺国への売電、建設などの産業が発展している。ただ就労人口の多くが主力産業の農業に従事しており、大

学で学んだIITなどの知識を生かせる企業が少ないのが現状だ。経済産業省によると、人工知能（AI）やIoT（モノのインターネット）など先端的なIIT業務に従事する人材が30年に日本国内で55万人不足すると試算する。そこで、大成HDは同国でIIT関連の雇用を創出し、現地の若者の就職難とあわせて、日本のIIT人材不足の解決につなげた方針だ。